

## 資生堂、第22回IFSCCエジンバラ大会において「最優秀賞」を受賞

世界の化粧品技術者が集う化粧品科学技術の最も権威ある研究発表会「第22回IFSCC大会」が、2002年9月23日～26日まで英国・エジンバラで開催され、資生堂は口頭(演壇)発表で「最優秀賞」を受賞しました。

前回の第21回大会に続く、2大会連続の「最優秀賞」受賞です。本大会には世界19カ国から196のテーマ(口頭発表55、ポスター発表141)がエントリーしています。

\* IFSCC (国際化粧品技術者連盟: International Federation of Societies of Cosmetic Chemists)

### 「最優秀賞」受賞テーマの概要

○テーマ:『新規肌あれ抑制成分「スキンケアパウダー」の開発』

○発表者: 資生堂 ライフサイエンス研究センター 河合江理子研究員 他

○テーマの概要: 肌荒れ予防・改善効果に優れた新規粉体「スキンケアパウダー」の開発に成功。肌荒れ時の角層表面にウロキナーゼが存在すること、これがプラスミノゲンアクティベーターとしてプラスミンを活性化し、肌荒れ発生の初期段階に重要な働きをしていることを新たに見出した。そこで本来表皮内部で活性化されると考えられていたウロキナーゼが角層表面で活性化されることに着目し、肌表面でその活性を取り除くことにより肌荒れが防御できるのではと考えた。様々な粉体を探索した結果、ウロキナーゼの活性を抑える粉体「酸化亜鉛」、ウロキナーゼを吸着する粉体「シリカ」「タルク」に有用性を認めた。これら2種類の粉体をナノオーダーレベルで複合化することに成功し、複合粉体「スキンケアパウダー」を開発。従来にない「無機粉体がスキンケア効果を示す」という知見を見出した。

本成分をパウダリーファンデーションに配合して4,039名の女性による3週間の連用試験を行った結果、70%に肌荒れ改善効果が認められた。

\* 本成果は、2001年3月に発売された『資生堂 エリクシール スキンアップ パクト』のファンデーションに初めて配合(スキンケアパウダー第1弾SCZ)され、その後応用の範囲を広げています。

### IFSCCとは

IFSCC(国際化粧品技術者連盟)は、1959年、8カ国の化粧品技術者会の参加により結成され、現在では38カ国、約13,000名の会員を擁する組織となっています。2年に1回、偶数年に開催されるIFSCC大会には、200報近いの研究発表と1,600名を超える参加者があり、名実ともに世界の化粧品技術者の最も権威ある研究発表の場となっています。資生堂はこれまで76年、86年、88年、90年、92年、2000年に最優秀賞を受賞(\*)しています。

\* ご参考 過去の「最優秀賞」受賞研究内容

1976年(第9回)	ボストン	「アミノ酸又はそれらの塩によって安定化された油中水型エマルジョンに関する研究と応用」(口頭発表)
1986年(第14回)	バルセロナ	「新しい有色真珠光沢顔料の開発」(口頭発表)
1988年(第15回)	ロンドン	「汗臭成分の解明とその新規消臭剤の開発」(口頭発表)
1990年(第16回)	ニューヨーク	「新規なW/O乳化型ネイルエナメルの開発」(口頭発表)
1992年(第17回)	横浜	「フケ抑制剤の評価と開発に関する研究」(口頭発表)
2000年(第21回)	ベルリン	「皮膚基底膜ケアに関する研究」(口頭発表) 「水で乾くエナメルの開発」(ポスター発表)